

DIGITAL PIANO
P-85/85S

取扱説明書

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。




ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



警告

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

この製品の内部には、お客様が修理 / 交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。



警告

電源 / 電源アダプター



必ず実行

電源は必ず交流 100V を使用する。
エアコンの電源など交流 200V のものがあります。
誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源アダプターは、必ず指定のもの (PA-5D または
ヤマハ推奨の同等品) を使用する。
(異なった電源アダプターを使用すると) 故障、発熱、
火災などの原因になります。



必ず実行

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりを
きれいに拭き取る。
感電やショートのおそれがあります。



禁止

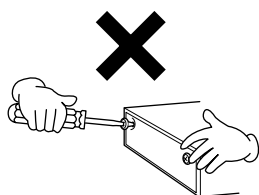
電源アダプターコードをストーブなどの熱器具に近
づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。ま
た、電源コードに重いものをのせない。
電源アダプターコードが破損し、感電や火災の原因に
なります。

分解禁止



禁止

この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり
改造したりしない。
感電や火災、けが、または故障の原因になります。異
常を感じた場合など、点検や修理は、必ずお買い上げ
の楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス
拠点にご依頼ください。



水に注意



禁止

本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置か
ない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いと
ころで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故
障の原因になります。入った場合は、すぐに電源ス
イッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上
で、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響
製品サービス拠点に点検をご依頼ください。



禁止

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。

火に注意



禁止

本体の上にもうそくなど火気のあるものを置か
ない。
ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になりま
す。

異常に気づいたら



必ず実行

電源アダプターコード / プラグがいたんだ場合、ま
たは、使用中に音が出なくなったり異常なおいや
煙が出たりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、
電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、
お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製
品サービス拠点に点検をご依頼ください。

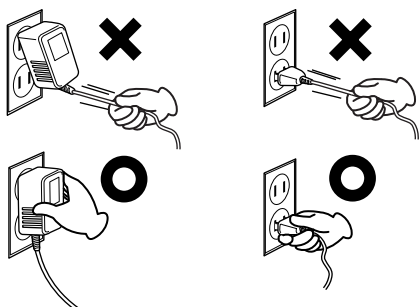
注意

電源 / 電源アダプター



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源アダプターコードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源アダプターコードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



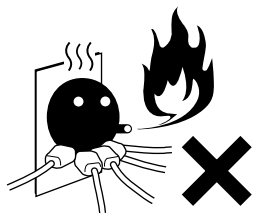
必ず実行

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電や火災、故障の原因になることがあります。



禁止

たこ足配線をしない。
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。



設置



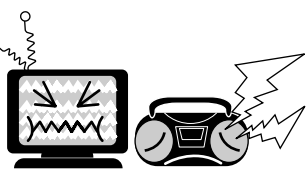
禁止

直射日光のあたる場所（日中の車内など）やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しない。
本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。



禁止

テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しない。
楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。



禁止

不安定な場所に置かない。
本体が転倒して故障したり、お客様や他の方々がかがをしたりする原因になります。



必ず実行

本体を移動するときは、必ず電源アダプターコードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。
コードをいためたり、お客様や他の方々転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

この機器を電源コンセントの近くに設置する。
電源プラグに容易に手の届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



必ず実行

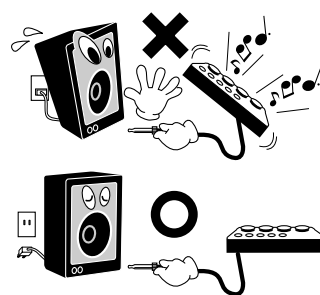
指定のスタンドを使用する。また、付属のネジがある場合は必ずそれを使用する。
本体が転倒し破損したり、内部の部品を傷つけたりする原因になります。

接続



必ず実行

他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行なう。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小にする。さらに、演奏を始める場合も必ず両機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げていき適切な音量にする。



感電または機器の損傷の原因になることがあります。

手入れ



禁止

本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは使用しない。
本体のパネルや鍵盤が変色 / 変質する原因になります。お手入れには、乾いた柔らかい布、もしくは水を固くしぼった柔らかい布をご使用ください。

使用時の注意



禁止

本体のすき間に手や指を入れない。
お客様がかがをするおそれがあります。



禁止

パネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。
感電、ショート、火災や故障の原因になることがあります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。



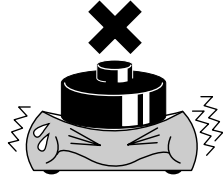
禁止

本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かない。
本体のパネルや鍵盤が変色 / 変質する原因になります。



禁止

本体の上ののったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。
本体が破損したり、お客様や他の方々へのけがをした原因になります。



禁止

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。



データの保存

作成したデータの保存とバックアップ



必ず実行

一部のデータは本体内部のメモリーに保存されます。電源を切ってもデータは保持されますが、故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、コンピューターに保存してください (27 ページ)。

- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。

電源スイッチを切った状態（電源スイッチが「STANDBY」の状態）でも微電流が流れています。スタンバイ時の消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源アダプターのプラグをコンセントから抜いてください。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にいたしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところで迷惑をかけてしまうことがあります。夜間の演奏には特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドフォンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。

このたびは、ヤマハ電子ピアノP-85/P-85Sを
お買い求めいただきまして、誠にありがとうございました。
P-85/P-85Sの優れた機能を十分に生かして
演奏をお楽しみいただくため、本書をお読みください。
また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに
大切に保管してください。

P-85の特長

自然な弾き心地を実現したGHS(グレードハンマースタANDARD)鍵盤

グランドピアノを採求して開発されたGH(グレードハンマー)鍵盤の基本理念をそのままに低音部と高音部とでは微妙に違う鍵盤タッチを再現しました。豊かで自然な弾き心地をつくりだしています。また、GHS鍵盤により楽器本体の軽量化を実現しました。

フルコンサートグランドピアノの音を使用 (AWMステレオサンプリング)

P-85は、ヤマハ独自のサンプリング音源システム「AWMステレオサンプリング」による豊かな音色を実現しています。

ピアノ音色のうち、^{グランドピアノ}GRAND PIANO 1、2の音色は、フルコンサートグランドピアノからサンプリングしました。^{エレクトリックピアノ}E. PIANO 1、2の音色は、鍵盤を弾く強さに応じて複数の波形をサンプリングしています(ダイナミックサンプリング)。

取扱説明書について

この取扱説明書は、以下のように構成されています。

●本書

〈準備編〉

最初にお読みください。

9ページの「目的別目次」、10ページの「各部の名前と機能」では、ご自分に合った使い方と、その説明ページを見つけることができます。

〈本編〉

楽器の機能の使い方と操作を詳しく説明しています。

楽器を操作しながらご覧ください。

〈付録〉

仕様などの資料を掲載しています。

●クイックオペレーションガイド

ボタンや鍵盤に割り当てられた機能の操作を詳しく説明しています。

●データリスト


MIDIに関する資料が、ヤマハのウェブサイトからダウンロードできます。インターネットに接続して以下のウェブサイトを開き、「モデル名から検索」テキストボックスにモデル名(「P-85」など)を入力して「検索」ボタンを押します。

ヤマハマニュアルライブラリー

<http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/>

表記上の決まり

[] パネル上にあるボタン類を示します。たとえば、マスターボリュームのスライダーは、文章中で [MASTER VOLUME] スライダーと表記します。

 「用語」です。P-85に関する用語や、専門用語を説明しています。

*この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。

*本文中では、P-85を「電子ピアノ」や「楽器」と表記することがあります。また、P-85とP-85Sを代表してP-85と表記します。

この製品は、ヤマハ(株)が著作権を有する著作物やヤマハ(株)が第三者から使用許諾を受けている著作物を内蔵または同梱しています。その著作物とは、すべてのコンピュータープログラムや、伴奏スタイルデータ、MIDIデータ、WAVEデータ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどのコンテンツを含みます。ヤマハ(株)の許諾を受けることなく、個人的な使用の範囲を越えて上記プログラムやコンテンツを使用することについては、著作権法等に基づき、許されていません。

- ヤマハ(株)および第三者から販売もしくは提供されている音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することは禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

付属品(お確かめください)

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 保証書 | <input type="checkbox"/> 取扱説明書(本書) |
| <input type="checkbox"/> ピアノで弾く名曲50選(楽譜集) | <input type="checkbox"/> クイックオペレーションガイド |
| <input type="checkbox"/> 電源アダプター PA-5D | <input type="checkbox"/> フットスイッチ FC5 |
| <input type="checkbox"/> 譜面立て | |

目次

準備編

P-85の特長	6
取扱説明書について	7
付属品(お確かめください)	7
目的別目次	9
各部の名前と機能	10
ご使用前の準備	11
電源を入れる	11
音量(ボリューム)を調節する	11
ペダルを接続する	12
ヘッドフォンを使う	13
譜面立てを使う	13

本編

デモ曲を聞く	14
ピアノ50曲(プリセットソング)を聞く	15
メトロノームを使う	16
音色を楽しむ	18
音色を選ぶ	18
2つの音色を重ねる(デュアル)	19
音に残響を付ける(リバーブ)	20
キー(調)を変える(トランスポーズ)	21
音の高さの微調整(チューニング)	21
タッチ感を変える	22
演奏を録音(記録)する	23
演奏を録音する	23
録音した演奏を聞く	24
初期値(曲の先頭に記録されたデータ)を変更する	25
MIDIミディ機器の接続	26
MIDIミディ端子と接続する	26
MIDIミディでできること	26
コンピューターと接続する	27
コンピューターと楽器間でデータを送受信する	27
MIDIミディに関する設定	28
MIDIミディ送信/受信チャンネルの設定	28
ローカルコントロールオン/オフの設定	28
プログラムチェンジ送受信オン/オフの設定	29
コントロールチェンジ送受信オン/オフの設定	30
困ったときは	31

付録

P-85仕様	32
別売品のご紹介	32
索引	33

目的別目次

目的に応じた説明ページを見つけるのにご利用ください

聞く

- 音色ごとのデモ曲が聞きたい.....「デモ曲を聞く」(14ページ)
- 「ピアノで弾く名曲50選」の曲を聞きたい.....「ピアノ50曲(プリセットソング)を聞く」(15ページ)

弾く

- ペダルを使いたい.....「ペダルを接続する」(12ページ)
- キーを合わせて演奏したい.....「キー(調)を変える(トランスポーズ)」(21ページ)
- 他の楽器やCDの音楽に合わせて演奏したい.....「音の高さの微調整(チューニング)」(21ページ)
- 音の強弱の付き方を変えたい.....「タッチ感を変える」(22ページ)
- メトロノームを使って演奏したい.....「メトロノームを使う」(16ページ)

音を変える

- 音を変えて演奏したい.....「音色を選ぶ」(18ページ)
- コンサートホールで弾いているような音にしたい.....「音に残響を付ける(リバーブ)」(20ページ)
- 2つの音色を重ねたい.....「2つの音色を重ねる(デュアル)」(19ページ)

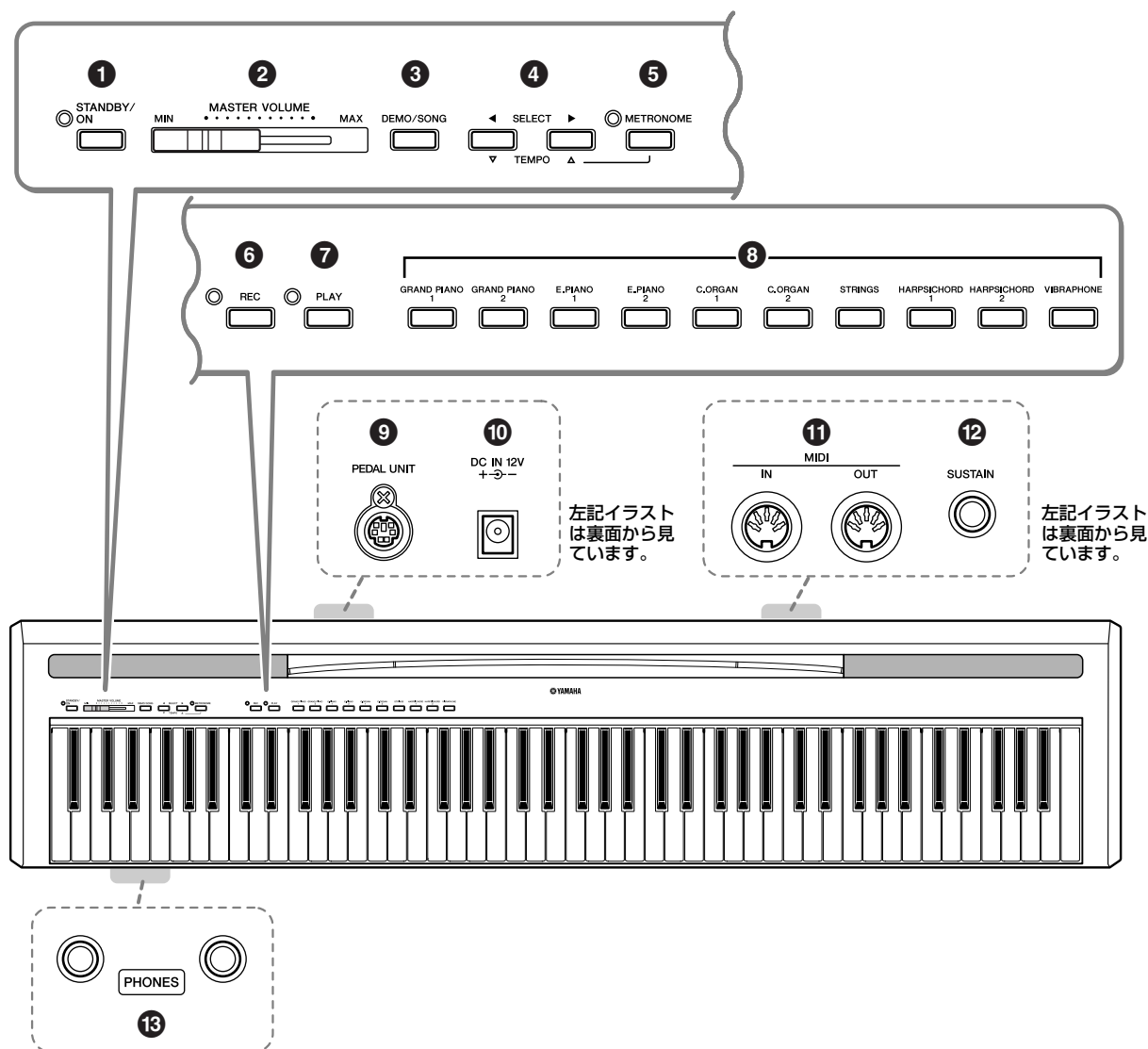
録音する

- 演奏を録音したい.....「演奏を録音(記録)する」(23ページ)

他の機器と接続して使う

- MIDIって何?.....「MIDIについて」(26ページ)
- コンピューターとつなぎたい.....「コンピューターと接続する」(27ページ)

各部の名前と機能



1 スタンバイ/オン
[STANDBY/ON]スイッチ 11ページ
電源のオン/オフを切り替えます。

2 マスターボリューム
[MASTER VOLUME]スライダー 11ページ
音量を調節します。

3 デモ/ソング
[DEMO/SONG]ボタン 14、15ページ
音色ごとのデモ曲やピアノ50曲(プリセットソング)を聞くことができます。

4 セレクト
SELECT [◀][▶]ボタン/
テンポ
TEMPO [▽][△]ボタン 14、15ページ
音色ごとのデモ曲やピアノ曲を再生中にこのボタンを押すと次の曲または前の曲に移動できます。また、テンポの変更もできます。

5 メトロノーム
[METRONOME]ボタン 16ページ
メトロノームを使用して正しいテンポで練習できます。

6 レコード
[REC]ボタン 23ページ
演奏を録音できます。

7 プレイ
[PLAY]ボタン 24ページ
録音した演奏を再生します。

8 音色ボタン 18ページ
グランドピアノをはじめとした10種類の音色をお楽しみいただけます。また、2つの音色を重ねて使うことができます。

9 ペダルユニット
[PEDAL UNIT]端子 12ページ
別売のペダルユニットLP-5を接続できます。

10 ディーシーイン12ボルト
[DC IN 12V]端子 11ページ
付属の電源アダプターを接続します。

11 ミディ イン アウト
MIDI [IN][OUT]端子 26ページ
MIDI機器を接続する場合に使います。

12 サステイン
[SUSTAIN]端子 12ページ
付属のフットスイッチFC5を接続します。また、別売のフットペダルFC3やフットスイッチFC4も接続できます。

13 フォーンズ
[PHONES]端子 13ページ
ヘッドフォンを接続します。

ご使用前の準備

電源を入れる

1 付属の電源アダプターのDCプラグをリアパネルの[DC IN 12 V]に差し込む

- ❗ 電源アダプターは、必ず指定のものをご使用ください。他の電源アダプターの使用は故障、発熱、発火などの原因になります。このような場合は、保証期間内でも保証いたしかねる場合がございますので、十分にご注意ください。指定の電源アダプターは、巻末「仕様」の電源アダプター欄(32ページ)で確認できます。

2 付属の電源アダプターのACプラグを家庭用(AC 100V)コンセントに差し込む

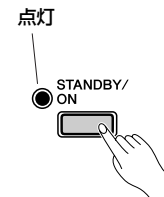
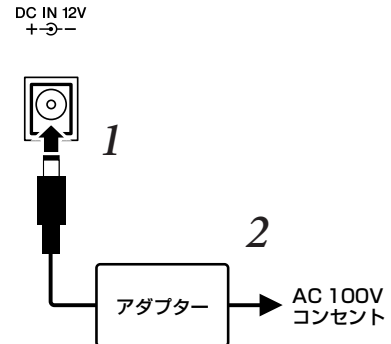
- ❗ 長時間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。感電や火災、故障の原因になることがあります。
- ❗ 電源は必ずAC100Vを使用してください。

3 本体パネル左の[STANDBY/ON]スイッチを押す

電源が入り、[STANDBY/ON]スイッチ左上の電源ランプが点灯します。

消すときはもう一度このスイッチを押します。

- ❗ 電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。楽器を長時間使用しないときは必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

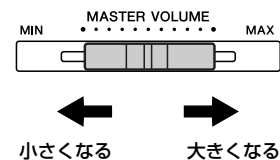


音量(ボリューム)を調節する

本体パネル左の[MASTER VOLUME]スライダーで調節します。実際に鍵盤を弾いて音を出しながら、音量を調節してください。

MASTER VOLUME=全体の音量

[MASTER VOLUME]スライダーで[PHONES]端子の出力レベルも調節できます。



ペダルを接続する

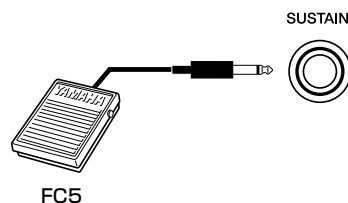
SUSTAIN端子(サステインペダル)

電源を切った状態で付属のフットスイッチFC5を接続します。このペダルを踏んでいる間、鍵盤から指を離しても音を長く響かせることができます。

なお別売のフットペダルFC3やフットスイッチFC4も使用できます。FC3をご使用の場合はハーフペダル機能*を使用できます。

*ハーフペダル機能とは

ペダルを踏んで音が響きすぎたと感じたとき、ペダルを踏み込んだ状態から少し戻し響きを抑える(音の濁りを減らす)機能です。

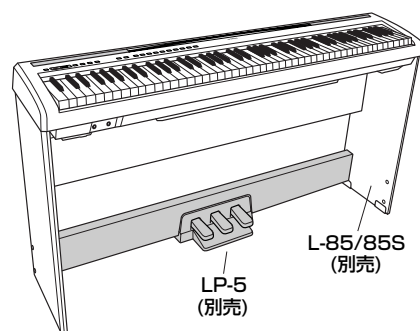
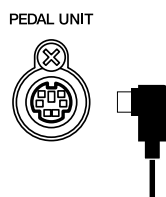


PEDAL UNIT端子(ペダルユニット)

別売の3本ペダルユニットLP-5を接続できます。

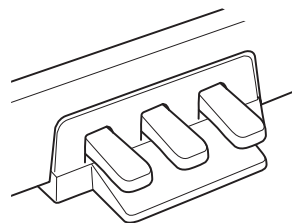
- ⚠ ペダルユニットをご使用の場合は、必ず専用スタンド L-85/85S(別売)に取り付けてお使いください。

フットスイッチ/フットペダル/ペダルユニットの抜き差しは、電源を切った状態で行ってください。またフットスイッチを踏んだまま楽器の電源を入れないでください。



ペダルユニットの機能

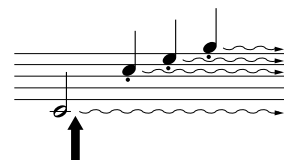
ペダルユニット(別売)には、右のペダル(ダンパーペダル)とまん中のペダル(ソステヌートペダル)、左のペダル(ソフトペダル)があります。これらはピアノ演奏で使われます。



右のペダル(ダンパーペダル)

このペダルを踏んでいる間、弾いた音を、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。

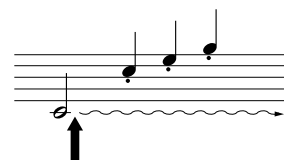
ペダルを踏み込むほど音が長く伸びます(ハーフペダル対応)。P-85では「GRAND PIANO 1」の音色で、ダンパーペダルを踏むと、ダンパーペダルを踏んだときの響板や弦の共鳴効果(サステインサンプリング)が加わります。



ここでダンパーペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤とそのあと弾いた音すべてが長く響く

まん中のペダル(ソステヌートペダル)

このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけを、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果はかかりません。



ここでソステヌートペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤の音だけが長く響く

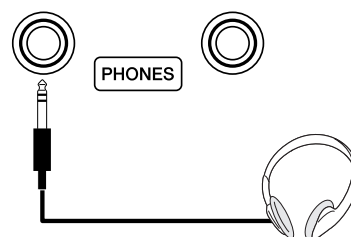
左のペダル(ソフトペダル)

このペダルを踏んでいる間、ペダルを踏んだあとに弾いた音量をわずかに下げ、音の響きを柔らかくすることができます。(ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音には効果はかかりませんので、効果をかけたい音を弾く直前に踏みます。)

ヘッドフォンを使う

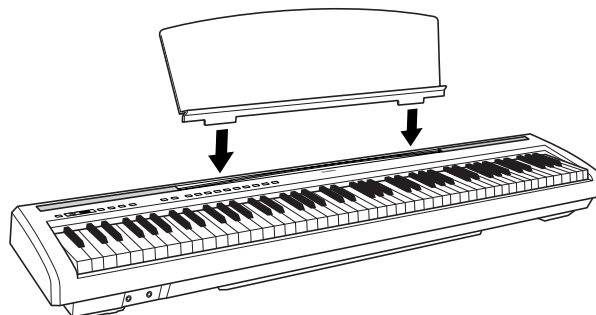
別売のヘッドフォンを[PHONES]端子に接続して使います。
ヘッドフォンを接続すると自動的にスピーカーから音が出なくなります。
[PHONES]端子は2つありますので、ヘッドフォンを2つ接続して2人で演奏を楽しむこともできます。
1本だけ接続する場合は、どちらの端子を使用しても構いません。

⊘ 大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。
聴覚障害の原因になります。



譜面立てを使う

本体パネルの溝に差し込んで使用します。



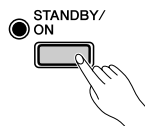
この楽器は、スピーカーが本体の底面に配置されています。机の上などに置いて使用しても、十分お楽しみいただけますが、より良い音でお楽しみいただくには、スタンド(別売)のご利用をおすすめいたします。

デモ曲を聞く

P-85には、音色ごとに1曲ずつデモ曲が入っています。聞いてみましょう。

1 ^{スタンバイ/オン} [STANDBY/ON]スイッチを押す

電源を入れていない場合は、電源が入ります。

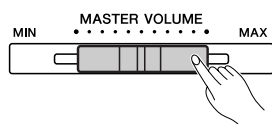


音色の特徴をつかむには
「音色を選ぶ」(18ページ)をご
覧ください。

デモ曲はMIDI送信されません。

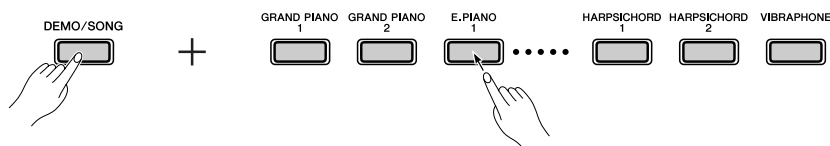
2 音量を調節する

音量はデモ曲を再生しながらでも調節できますが、
[MASTER VOLUME]スライダーを中程まで上げておいてください。



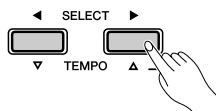
3 ^{デモ/ソング} [DEMO/SONG]ボタンを押したまま、聞きたいデモ曲の音色ボタンを押す

デモ曲の再生がスタートします。そのあと、再生をストップするまで、音色ボタンの左から順にデモ曲が連続して再生されます。



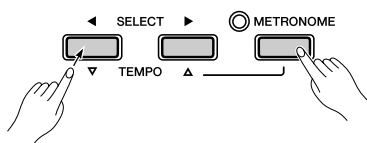
[DEMO/SONG]ボタンのみを
押した場合は、GRAND
PIANO 1のデモ曲から順に再
生されます。

デモ曲の再生中にSELECT [◀]/[▶]ボタンを押すと、次のデモ曲に移ります。



また、再生中に他の音色ボタンを押すと、そのデモ曲が再生されます。

[METRONOME]ボタンを押したまま、TEMPO [▽]/[△]ボタンを押すと、再生中のデモ曲のテンポを変更できます。



●デモ曲

音色名	曲名	作曲者
HARPSICHORD 1 (ハープシコード1)	ガボット	バッハ
HARPSICHORD 2 (ハープシコード2)	インベンション第1番	バッハ

上記デモ曲は、原曲から編集/抜粋されています。

上記以外の曲は、オリジナル曲です。(© 2007 Yamaha Corporation)

4 ^{デモ/ソング} [DEMO/SONG]ボタンを押して、再生をストップする



ピアノ50曲(プリセットソング)を聞く

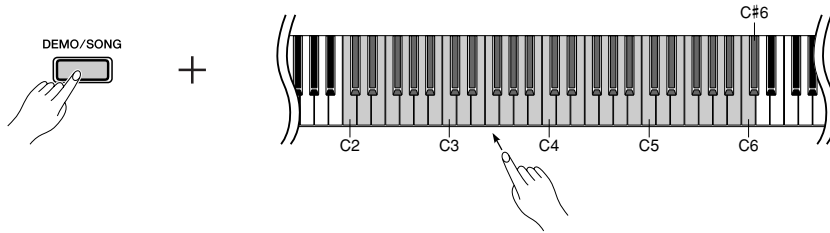
P-85には、音色のデモ曲の他にピアノ50曲の演奏データが入っています。付属の「ピアノで弾く名曲50選」の楽譜集には、ピアノ50曲の楽譜が掲載されていますので、ご活用ください。

1 ^{デモ / ソング} [DEMO/SONG]ボタンを押したままC2～C#6のどれかを押して、ピアノ曲を選ぶ

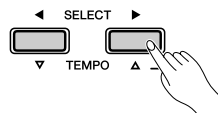
C2～C#6の鍵盤(以下参照)には50曲のピアノ曲が割り当てられています。

詳しくは、クイックオペレーションガイドをご参照ください。

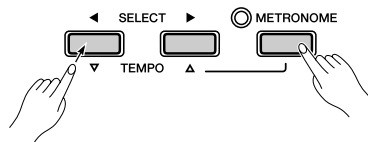
ピアノ50曲は、再生をストップするまで連続して再生されます。



ピアノ曲の再生中にSELECT [◀]/[▶]ボタンを押すと、次のピアノ曲に移ります。



[METRONOME]ボタンを押したまま、TEMPO [▽]/[△]ボタンを押すと、再生中のピアノ曲のテンポを変更できます。



2 ^{デモ / ソング} [DEMO/SONG]ボタンを押して、再生をストップする

他の曲を再生する場合は、操作1に戻ります。



ソングとは

P-85では、演奏データを総称して「ソング(SONG)」と呼んでいます。デモ曲やピアノ曲も演奏データです。

再生に合わせて、自分で鍵盤を弾くこともできます。音色も変えられます。

リバーブは新しい曲を選んだり、連続再生で新しい曲がスタートしたりすると、その曲に合ったリバーブの種類になります。

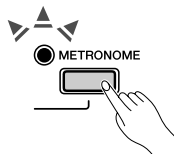
ピアノデモ曲は、MIDI送信されません。

メトロノームを使う

この楽器は、メトロノーム(ピアノの練習でよく使われる正確なテンポを刻む道具)を備えています。ご使用ください。

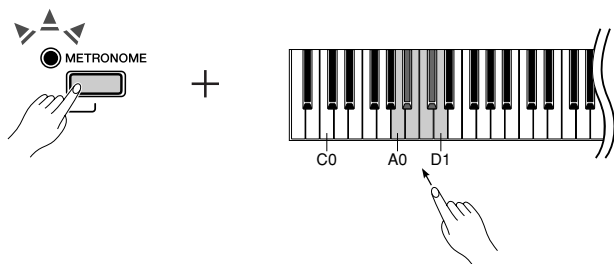
1 ^{メトロノーム} [METRONOME] ボタンを押す

メトロノームが鳴り出します。

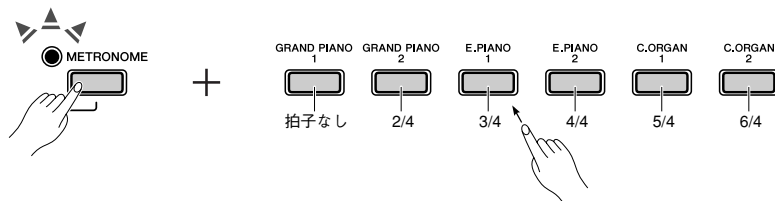


拍子の設定

[METRONOME] ボタンを押したまま A0～D1 鍵盤のどれかを押します。
たとえば 3/4 (B0) に設定すると「チーンカチカチ」と鳴ります。
初期設定は拍子なし(A0)です。この場合すべての拍で「カチカチ」と鳴ります。



[METRONOME] ボタンを押したまま音色ボタン GRAND PIANO 1～C.ORGAN 2 のどれかを押して拍子を設定することもできます。



鍵盤	拍子
A0	拍子なし
A#0	2/4
B0	3/4
C1	4/4
C#1	5/4
D1	6/4

初期設定とは

本書では、初めて電源を入れたときの設定のことを「初期設定」と呼んでいます。

テンポの調節

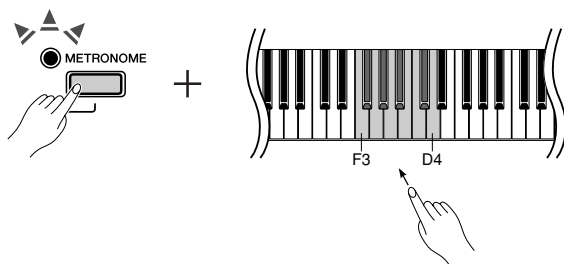
メトロノームやソングを 32 ～ 280 (1 分間の拍数) の範囲で設定することができます。

テンポを数値入力する

以下の鍵盤にはそれぞれ数字が割り当てられています。

[METRONOME] ボタンを押したまま F3～D4 鍵盤のどれかを押して、3桁の数字を設定します。100の位から順番に設定します。

たとえば、テンポを95に設定したい場合は、[METRONOME] ボタンを押したまま、F3(0)、D4(9)、A#3(5)の順番で鍵盤を押します。



テンポを1ずつ上げる

[METRONOME]ボタンを押したままF#4鍵盤を押します。

テンポを1ずつ下げる

[METRONOME]ボタンを押したままE4鍵盤を押します。

テンポを10ずつ上げる

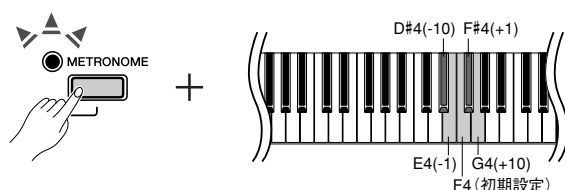
[METRONOME]ボタンを押したままG4鍵盤を押します。

テンポを10ずつ下げる

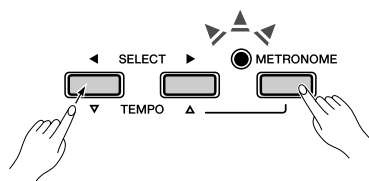
[METRONOME]ボタンを押したままD#4鍵盤を押します。

テンポを初期設定に戻す

[METRONOME]ボタンを押したままF4鍵盤を押します。



また、[METRONOME]ボタンを押したままTEMPO [▽]/[△]ボタンを押して、テンポを1ずつ上げ下げすることもできます。



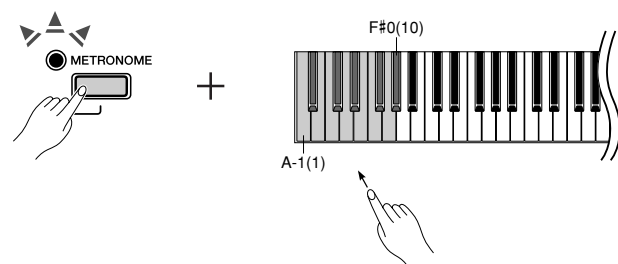
[METRONOME]ボタンを押したままTEMPO[▽]/[△]ボタンを同時に押すとテンポを初期設定に戻せます。

音量の調節

メトロノームの音量を設定します。

[METRONOME]ボタンを押したままA-1～F#0鍵盤のどれかを押して音量を設定します。

右側の鍵盤を押すほど音量が大きくなります。



設定範囲：A-1(1)～F#0(10)
初期設定：D#0(7)

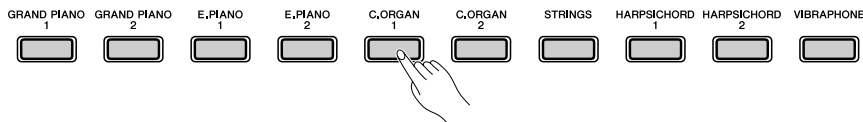
2 ^{メトロノーム} [METRONOME]ボタンを押して、メトロノームを止める



音色を楽しむ

音色を選ぶ

1 使いたい音色ボタンを押す



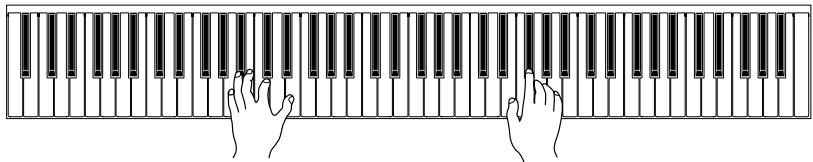
音色名	音色紹介
GRAND PIANO 1 (グランドピアノ1)	フルコンサートグランドピアノからサンプリングしました。クラシックはもちろん、どんなジャンルのピアノ曲にも合います。
GRAND PIANO 2 (グランドピアノ2)	明るい響きを持ったクリアなピアノの音です。ポピュラー音楽に最適です。
E.PIANO 1 (エレクトリックピアノ1)	FMシンセサイザーによる電子ピアノの音です。ポピュラー音楽に最適です。
E.PIANO 2 (エレクトリックピアノ2)	金属片をハンマーでたたいて発音させる電気ピアノの音です。弱く弾いたときは柔らかく、強く弾くと芯のある音がします。
C.ORGAN 1 (チャーチオルガン 1)	パイプオルガンのプリンシパル系(金管楽器系)の混合音栓の音(8フィート+4フィート+2フィート)です。バロック時代の教会音楽の演奏に適しています。
C.ORGAN 2 (チャーチオルガン 2)	バッハの「トッカータとフーガ」で有名なパイプオルガンのフルカブラーの音です。
STRINGS (ストリングス)	広がりある弦楽アンサンブルの音です。ピアノとのデュアルに向いています。
HARPSICHORD 1 (ハープシコード 1)	バロック音楽でよく使われる楽器の音です。タッチによる音量変化はありません。
HARPSICHORD 2 (ハープシコード 2)	オクターブ上の音がミックスされたハープシコードの音です。より華やかさが感じられます。
VIBRAPHONE (ビブラフォン)	比較的柔らかなマレットでたたいたビブラフォンの音です。

音色の特徴をつかむには
音色ごとのデモ曲を聞いてみて
ください。(14ページ)

音色を選ぶと、その音色に合っ
たリバーブ(20ページ)が自動的
に選ばれます。

2 音量を調節する

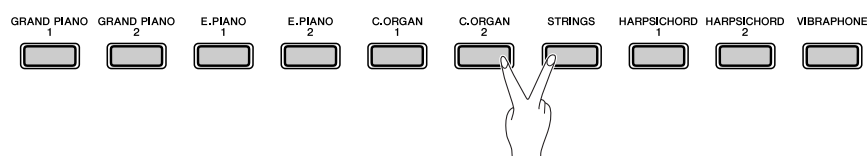
[MASTER VOLUME]スライダーで音量を調節しながら演奏してください。



2つの音色を重ねる(デュアル)

音色を重ねる機能をデュアルといいます。重ねて鳴らすことにより厚みのある音を作り出せます。

1 音色ボタンのうち2つを同時に押して、デュアルに入る

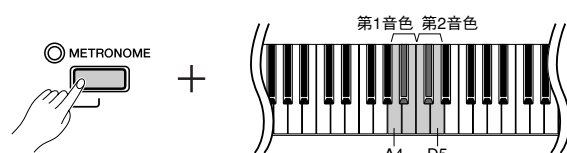


選んだ2つの音色ボタンのうち、左側にある音色が第1音色、右側にある音色が第2音色になります。

第1音色、第2音色は、以下のような設定ができます。

オクターブシフトの設定

音程を1オクターブ上下にシフトさせます。音の響き方が違ってきます。
[METRONOME]ボタンを押したままA4～D5鍵盤のどれかを押します。



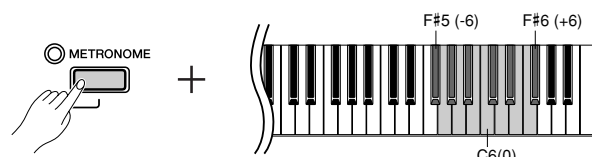
第1音色と第2音色は、別々に設定ができます。

第1音色	A4	-1	第2音色	C5	-1
	A#4	0		C#5	0
	B4	+1		D5	+1

音色の音量バランスの設定

片方の音をメインにしてもう片方の音を薄く重ねるなど、2音色の音量バランスを設定します。

[METRONOME]ボタンを押したままF#5～F#6鍵盤のどれかを押します。設定範囲は-6～0～+6(イラスト参照)で設定値が+6に近づくほど第1音色の音量が大きくなります。設定値が0で同音量です。



2 音色ボタンのうちどれか1つを押して、デュアルを抜ける

デュアルのときのリバーブ
第1音色のリバーブの種類が、優先されます。第1音色のリバーブがオフの時は、第2音色に設定されているリバーブの種類になります。

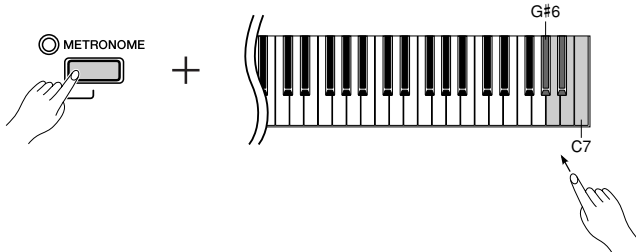
音に残響を付ける(リバーブ)

コンサートホールやライブハウスで演奏しているような残響効果を付けます。以下の4種類の中から設定できます。また、その深さ(かかり具合)を変えられます。

鍵盤	リバーブの種類	説明
G#6	ルーム	部屋の中にあるような響きになります。
A6	ホール1	小さいコンサートホールにあるような響きになります。
A#6	ホール2	大きいコンサートホールにあるような響きになります。
B6	ステージ	ステージにあるような響きになります。
C7	オフ	リバーブはかかりません。

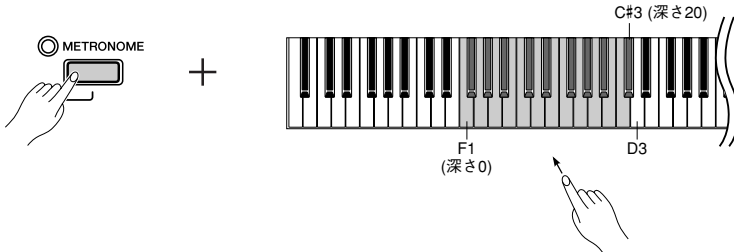
リバーブの種類の設定

[METRONOME]ボタンを押したままG#6～C7鍵盤のどれかを押します。



リバーブの深さの設定

[METRONOME]ボタンを押したままF1～C#3鍵盤のどれかを押します。



右の鍵盤ほどリバーブの深さを深く設定できます。

[METRONOME]ボタンを押したままD3鍵盤を押すと、その音色に最適なリバーブの深さになります。

設定範囲：0(効果なし)～
20(深さ最大)

音色ごとにリバーブの種類(オフも含む)や深さが設定されています。

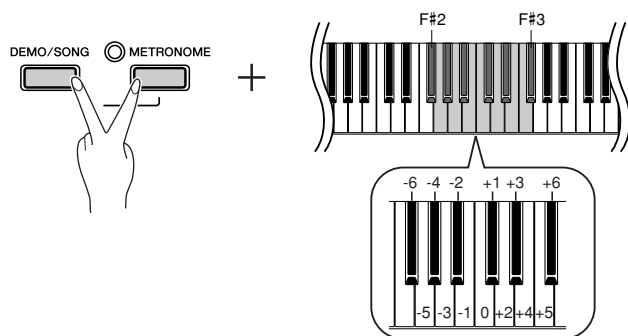
キー (調) を変える (トランスポーズ)

弾く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さにキー (調) を合わせることができます。半音単位でトランスポーズを設定できます。

たとえばトランスポーズを「+5」に設定すると、「ド」の鍵盤を弾いたときに「ファ」の音が出ることになり、「ハ長調」の弾きかたで「ヘ長調」の演奏になります。

トランスポーズの設定

[DEMO/SONG] ボタンと [METRONOME] ボタンを同時に押したまま F#2 ~ F#3 鍵盤のどれかを押します。



C3 鍵盤を押すと標準の音の高さになります。F#2 ~ B2 鍵盤を押すと半音単位でキーが下がり、C#3 ~ F#3 鍵盤を押すと半音単位でキーが上がります。

トランスポーズ：移調する

移調：曲全体の音の高さを上げたり下げたりしてキー (調) を変えること。

トランスポーズ量

F#2：-6半音
C3：標準の音の高さ
F#3：+6半音

音の高さの微調整 (チューニング)

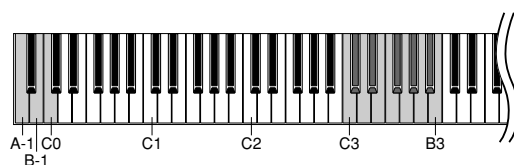
楽器全体の音の高さを微調整する機能です。合奏のときや、CDの再生に合わせて演奏するときなど、ほかの楽器やCDの再生音などと音の高さを正確に合わせたい場合に使います。

音の高さの設定

音の高さを上げる

(約1セント単位。100セント=半音)

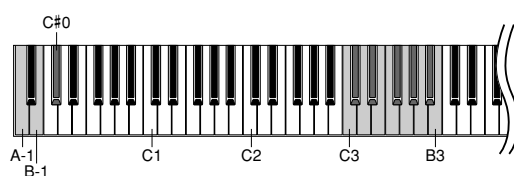
A-1 と B-1 と C0 鍵盤を同時に押したまま C3 ~ B3 鍵盤のどれかを押します。



音の高さを下げる

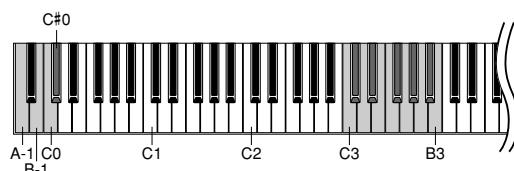
(約1セント単位。100セント=半音)

A-1 と B-1 と C#0 鍵盤を同時に押したまま C3 ~ B3 鍵盤のどれかを押します。



初期設定に戻す

A-1 と B-1 と C0 と C#0 鍵盤を同時に押したまま C3 ~ B3 鍵盤のどれかを押します。



初期設定とは

本書では、初めて電源を入れたときの設定のことを「初期設定」と呼んでいます。

設定範囲：-65 ~ +65 セント

初期設定 (0 セント) では A3=440Hz になっています。440Hz 付近では、1Hz=約4セントです。たとえば A3=442Hz にしたい場合、8回の操作で一番近い状態になります。

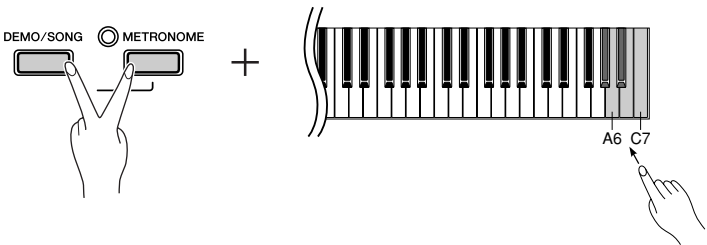
タッチ感を変える

鍵盤を弾く強さに対する鳴る音の音量を設定します。以下の4段階に設定できます。

鍵盤	タッチの種類	説明
A6	フィクスト	タッチによる音の強弱は付かず、一定の音量が出ます。
A#6	ソフト	軽いタッチで大きい音を出すことができます。比較的音のつづがそろいやすいタッチです。
B6	ミディアム	標準的なタッチです。
C7	ハード	強いタッチで弾かないと大きい音が出にくい設定です。ピアノニッシモからフォルティッシモまで表現豊かな演奏ができます。

タッチ感の設定

[DEMO/SONG]ボタンと[METRONOME]ボタンを同時に押したままA6～C7の鍵盤のどれかを押します。



C.ORGAN 1、2、
HARPSICHORD 1、2の音色
ではタッチがかかりません。

初期設定：B6

演奏を録音(記録)する

P-85の録音機能を使ってご自身の演奏を録音する方法を説明します。
P-85に録音できるのは1曲のみです。

「録音」と「記録」

カセットテープに録音するのとP-85の録音機能を使って録音(記録)するのでは、録音されるデータの形式が異なります。

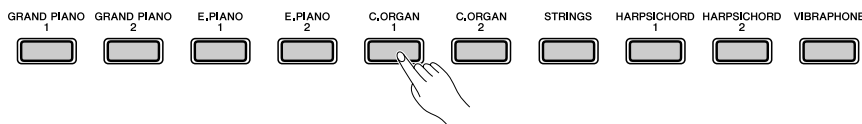
カセットテープでは音そのものが「録音」されますが、P-85の録音機能では音そのものではなく、「どの音をどのタイミングで弾いた。音色はこれで、テンポはいくつで…」という情報が「記録」されます。再生の際は記録された情報どおりに、「音源」部が鳴ります。

P-85の録音機能を使った「録音」は、本来「記録」というべきですが、広義に捉えて、本書では一般的に理解しやすい「録音」という言葉を使います。ただし、特に区別してご理解いただきたい場合は、「記録」という場合もあります。

演奏を録音する

1 録音する音色(とそのほかの設定)を選ぶ

音色ボタンを押して録音に使う音色を選びます。

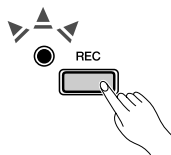


必要に応じてそのほかの設定(リバーブなど)も選んでください。

[MASTER VOLUME]スライダーは弾きやすい音量に設定してください。再生のときにも[MASTER VOLUME]スライダーで音量を調節することができます。

2 ^{レコード} [REC]ボタンを押して、録音モードに入る

[REC]のランプが点滅します。

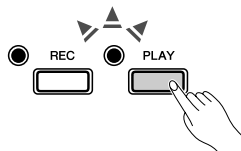


録音を中止する場合は、もう一度[REC]ボタンを押します。

3 録音をスタートする

演奏を始めると自動的に録音がスタートします。または、[PLAY]ボタンを押すと録音がスタートします。

録音中は、[REC]のランプが点灯します。また、[PLAY]のランプが、現在のテンポのタイミングで点滅します。



デモ曲やピアノ曲などのソング再生中は録音モードに入ることができません。

メトロノームを使う

メトロノームを鳴らしながら録音することもできます。ただしメトロノームの音は、録音されません。

録音されるデータの種類については、24ページをご覧ください。

演奏記憶容量

P-85に録音できる容量は、65KB(約11,000音符)です。

録音中に記憶残容量が少なくなってきた場合

記憶残容量が少なくなると、[REC]ランプと[PLAY]ランプの両方が点滅します。そして記憶残容量がなくなると、録音が自動的にストップします(それまでの演奏データは録音され、残ります)。

4 ^{レコード} [REC] または ^{プレイ} [PLAY] ボタンを押して、録音をストップする

録音をストップすると、[REC]ランプと[PLAY]ランプが点滅し、録音した曲が楽器に自動保存されていることを示します。自動保存が終わると、[REC]ランプが消え、[PLAY]ランプのみが点灯します。

❗ ランプが点滅しているときに電源を切らないでください。ランプが点滅しているときに電源を切ると、曲データが保存されないおそれがあります。

録音(記録)されるデータの種類

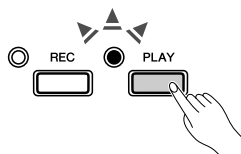
実際には、弾いた音や音色のほかにも録音(記録)されるデータがあります。

- ・ノートデータ(弾いた音)
- ・音色
- ・ペダル操作(サステイン、ソフト、ソステヌート)
- ・リバーブの深さ
- ・デュアルの音色
- ・デュアル音量バランス
- ・デュアルオクターブシフト
- ・テンポ
- ・リバーブの種類(オフも含む)

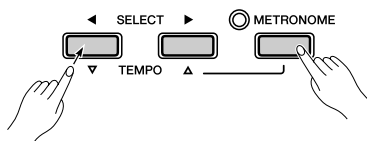
録音したデータはコンピューターに保存することができます。またコンピューターから読み込んで再生することもできます(27ページ)。

録音した演奏を聞く

[PLAY]ボタンを押すと、録音した演奏が再生されます。



[METRONOME]ボタンを押したまま、TEMPO[▽]/[△]ボタンを押すと、再生中の演奏のテンポを変更できます。



[PLAY]ボタンをもう一度押すと、再生が止まります。

録音したデータを削除するには [REC]ボタンで録音をスタートし、何もせず[PLAY]ボタンで録音をストップすると、そのパートのデータがすべて削除されます。

曲の途中から録音し直すことは、できません。

初期値(曲の先頭に記録されたデータ)を変更する

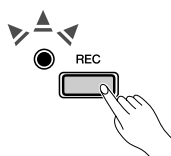
録音を終えたあとでも、曲の初期値(曲の先頭に記録されたデータ)を変更することができます。たとえば、録音したあとで音色を変更して違った雰囲気の曲にしたり、曲を適切なテンポに調節したりすることができます。

初期値を変更できるデータ

- ・音色
- ・デュアルの音色
- ・サステイン/ソフトペダルのかかり具合
- ・テンポ

1 レコード [REC]ボタンを押して録音モードに入る

[REC]ランプが点滅します。



2 変更したい項目をパネルで操作して変更します

たとえば、録音した[E.PIANO 1]の音色を[E.PIANO 2]に変更したい場合は、ここで[E.PIANO 2]ボタンを押します。サステインペダルのかかり具合を変更したい場合は、ここでサステインペダルを踏んだままにします。

ここで鍵盤や[PLAY]ボタンを押さないようご注意ください。録音がスタートしてしまい、録音済みのデータが消えてしまいます。

3 レコード [REC]ボタンを押して録音モードを抜けます

ここで[PLAY]ボタンを押さないようご注意ください。録音がスタートしてしまい、録音済みのデータが消えてしまいます。

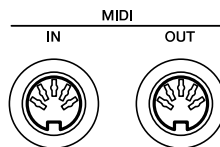
ミディ MIDI機器の接続

P-85には、MIDI端子がついています。MIDI機能を使って他の楽器やコンピューターとデータを送受信することにより音楽の幅を広げることができます。

ミディ MIDI端子と接続する

MIDI [IN] [OUT]端子

MIDI接続専用のケーブルを使って外部MIDI機器と接続する端子です。



MIDIについて

MIDI (Musical Instrument Digital Interface)とは、MIDI端子を備えたMIDI機器間や、MIDI機器とコンピューター間で演奏データや命令を送受信しあうための、各種送受信データ様式についての統一規格です。MIDI機器間(MIDI機器とコンピューター間)でMIDIデータを送受信することにより、この楽器から外部のMIDI機器の演奏をコントロールしたり、外部のMIDI機器やコンピューターからこの楽器をコントロールしたりすることができます。

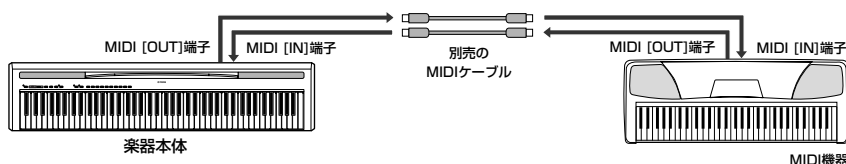
MIDI機器の中でも、機種ごとに送受信できるMIDIデータの内容が同じではないため、接続しているMIDI機器間で共通に扱えるデータや命令だけが送受信できることになります。共通に扱えるデータや命令は、各機種の「MIDIインプリメンテーションチャート」を照合して調べることができます。P-85のMIDIインプリメンテーションチャートはヤマハのウェブサイトからダウンロードできます(7ページ)。

ミディ MIDIでできること

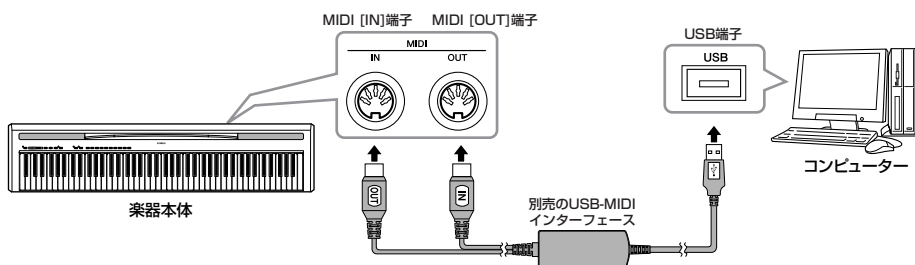
MIDI機能を使えば、他のMIDI機器との演奏情報のやりとりができます。

❗ 外部機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った上で行なってください。

他のMIDI機器と接続して演奏情報を送受信する



コンピューターと接続してMIDIデータを送受信する



P-85から音色デモやピアノ50曲のソングデータは送信できません。

MIDI機器の接続には、専用のMIDIケーブル(別売)が必要です。楽器店などで買い求めください。

YAHAMA MIDIケーブル
MIDI 01 (長さ1m)
MIDI 03 (長さ3m)
MIDI 15 (長さ15m)

コンピューターと接続する

コンピューターをP-85のMIDI端子につなげば、コンピューターとの間でMIDIデータを送受信できるようになります。

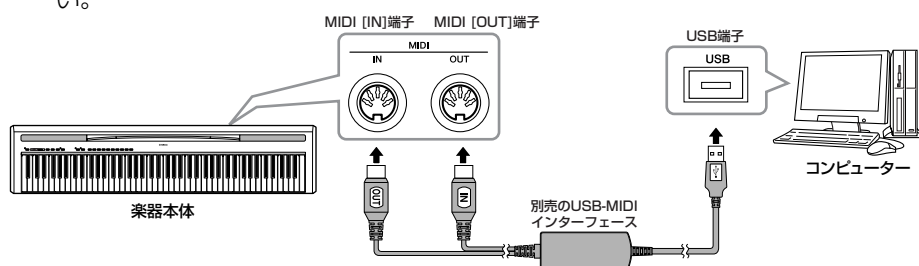
- ❗ コンピューターと接続する場合は、最初にP-85の電源を切り、コンピューター上のすべてのアプリケーションソフトを終了した状態でケーブルを接続し、そのあとP-85の電源を入れてください。

コンピューターのUSB端子とP-85を接続する方法

コンピューターのUSB端子と、楽器のMIDI端子を別売のUSB-MIDIインターフェース(YAMAHA UX16など)を使用して接続します。

P-85をコンピューターで使用するには、コンピューターにUSB-MIDIドライバーを正しくインストールする必要があります。USB-MIDIドライバーは、シーケンスソフトなどからUSBケーブルを通じて楽器にMIDI信号を送信したり、逆に楽器からシーケンスソフトなどにMIDI信号を送信するためのソフトウェアです。

詳しくは、USB-MIDIインターフェース機器に付属の取扱説明書をご参照ください。



P-85を音源として使う場合、P-85にない音色が使われている演奏データは、正しく再生されません。

コンピューターと楽器間でMIDIデータを送受信するためには、コンピューター側にアプリケーションソフトが必要です。

コンピューターと楽器間でデータを送受信する

録音したデータなど、楽器にバックアップされたデータは、コンピューターに保存することができます。また、コンピューターに保存したデータをもう一度楽器に読み込んで演奏することもできます。

バックアップデータを送受信するためには、下記URLからミュージックソフトダウンローダーをダウンロード(無料)し、ご使用のコンピューターにインストールする必要があります。

<http://www.yamaha.co.jp/download/msd/>

ミュージックソフトダウンローダーを使用するために必要なコンピューターシステムについては上記URLでご確認ください。

データを送受信の方法は、ミュージックソフトダウンローダーについているヘルプ「コンピューターと電子楽器の間でデータを転送する」をご参照ください。

- ⊘ データ通信中は電源を切ったり、電源プラグを抜き差ししたりしないでください。送信中のデータが保存されないだけでなく、フラッシュメモリーの動作が不安定になり、メモリー内容が電源入/切時にすべて消える可能性があります。
- ⊘ コンピューター上でファイル名を変更しないでください。楽器に転送しても認識されなくなります。

初期設定に戻す

いったん電源をオフにし、右端の鍵盤(C7)を押しながら電源をオンにします。この操作をすると、楽器は初期設定(工場出荷時の状態)に戻ります。

- ⊘ 初期化実行中([REC]と[PLAY]のランプ点滅中)は電源を切らないでください。

バックアップデータ

以下のデータは、楽器内部のフラッシュメモリーに保存され、電源を切っても記憶されています。

- ・メトロノームの音量
- ・メトロノームの拍子
- ・タッチ感度
- ・チューニング
- ・自分で録音した演奏データ

バックアップデータのファイル名：NPP88.BUP

ミュージックソフトダウンローダーの動作中は、本体の[REC]と[PLAY]のランプが点灯します。

楽器の操作をするためには、ミュージックソフトダウンローダーの画面を閉じて終了させる必要があります。

この楽器が、何らかの原因で操作不能になったり、誤動作したりした場合は、一旦電源を切り、初期化を行なってください。

ミディ MIDIに関する設定

MIDIに関する各種設定や操作を行ないます。詳しくは、クイックオペレーションガイドをご参照ください。

ミディ MIDI送信/受信チャンネルの設定

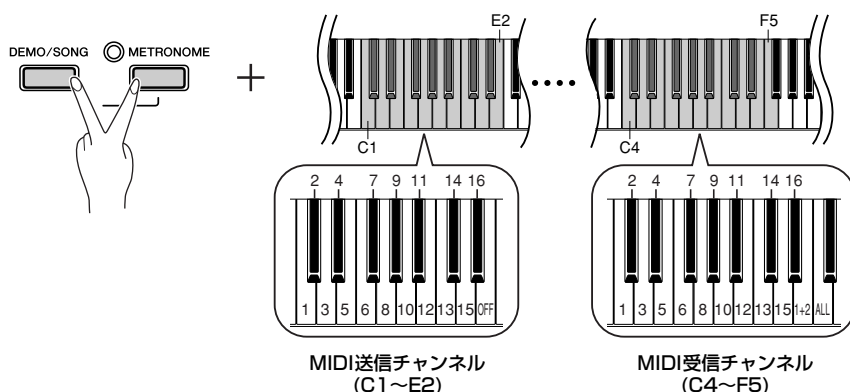
MIDI楽器どうしで、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側でMIDIチャンネル(1~16チャンネル)を合わせておく必要があります。ここでP-85からMIDIデータを送受信するときのチャンネルを設定します。

MIDI送信チャンネルの設定

[DEMO/SONG]ボタンと[METRONOME]ボタンを同時に押したままC1~E2鍵盤のどれかを押します。

MIDI受信チャンネルの設定

[DEMO/SONG]ボタンと[METRONOME]ボタンを同時に押したままC4~F5鍵盤のどれかを押します。



デュアルのときの第2音色は
ここで設定したチャンネルの次のチャンネルで送信されます。(第1音色は、ここで設定したチャンネルで送信されます。)ただし、上記設定チャンネルをOFFに設定した場合は送信されません。

ALLの場合は

「マルチティンバー」と呼ばれる仕様になっており、外部MIDI機器から送信される複数のチャンネルのデータを、同時に受信します。複数のチャンネルを使って作られた演奏データを、P-85で受信して再生させることができます。

「1+2」の場合は

シーケンサーなどの外部MIDI機器から受信するデータのうち1、2チャンネルのデータだけを受信し、P-85本体で再生することができます。

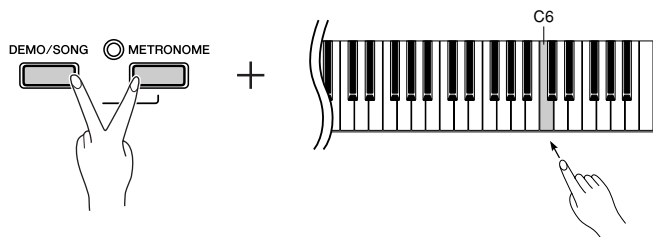
P-85では、P-85本体のパネル設定や手弾き音は、送信されてくるプログラムチェンジ(音色切り替え)などのチャンネルメッセージから影響を受けません。

デモ曲/ピアノ50曲の再生データはMIDI送信されません。

ローカルコントロールオン/オフの設定

通常、P-85の鍵盤を弾くと本体内部の「音源」から音が出ます。この状態は「ローカルコントロールオン」と呼ばれます。「ローカルコントロールをオフ」にすると、「鍵盤」と「音源」が切り離され、鍵盤を弾いてもP-85からは音が出なくなります。一方、鍵盤を弾いた演奏データはMIDI送信されますので、P-85の音を鳴らさずにMIDI接続した外部の音源を鳴らしたいときなどに、ローカルコントロールをオフにします。

[DEMO/SONG]ボタンと[METRONOME]ボタンを同時に押したままC6鍵盤を押します。C6鍵盤を押すたびにローカルコントロールオン/オフが設定されます。



初期設定：オン

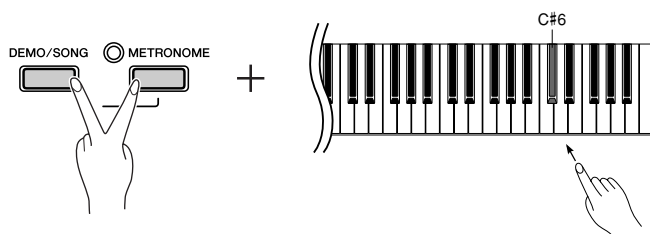
プログラムチェンジ送受信オン/オフの設定

MIDIで送信側の機器から受信側の機器の音色を切り替える情報をプログラムチェンジと言います。たとえばP-85からプログラムチェンジを送信するとMIDI接続した外部機器の音色を切り替えることができます。(P-85のパネル上で音色を切り替えたときに、切り替えた音色のプログラムチェンジナンバーが送信されます。)逆にMIDI接続した外部機器から送信されたプログラムチェンジをP-85が受信すると、同時に受信しているMIDIの演奏データの音色が切り替わります。(このとき鍵盤での手弾き音色は切り替わりません。)

このプログラムチェンジの送/受信ができたほうが便利の場合(=MIDI接続した外部機器と音色切り替えを連動させたい場合)と、できないほうが便利の場合(=MIDI接続した外部機器と音色切り替えを連動させたくない場合)があります。音色切り替えを連動させたい場合はオンに、連動させたくない場合は、オフにします。

[DEMO/SONG]ボタンと[METRONOME]ボタンを同時に押したままC#6鍵盤を押します。C#6鍵盤を押すたびにプログラムチェンジ送受信オン/オフが設定されます。

初期設定：オン



●各音色のプログラムチェンジナンバー

プログラムチェンジを0~127で設定する場合は、下記リストのP.C.#から1を引いた数で指定します。たとえば、P.C.#1のプログラムを指定する場合は、プログラムチェンジ=0になります。

音色名	MSB	LSB	P.C.#
GRAND PIANO 1	0	122	1
GRAND PIANO 2	0	112	1
E.PIANO 1	0	122	6
E.PIANO 2	0	122	5
C.ORGAN 1	0	123	20
C.ORGAN 2	0	122	20
STRINGS	0	122	49
HARPSICHORD 1	0	122	7
HARPSICHORD 2	0	123	7
VIBRAPHONE	0	122	12

P.C.#=Program Change number

コントロールチェンジ送受信オン/オフの設定

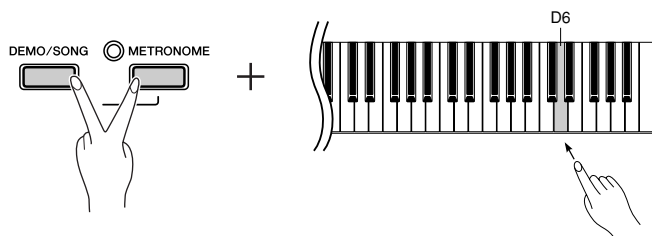
コントロールチェンジデータとは、MIDIデータのうち、演奏表現など(たとえば、サステインペダルの情報)に関するデータのことです。

P-85からコントロールチェンジを送信するとMIDI接続した外部機器の演奏をコントロールすることができます。(P-85でサステインペダルを操作したときなどにコントロールチェンジが送信されます。)逆にMIDI接続した外部機器から送信されたコントロールチェンジをP-85が受信すると、同時に受信しているMIDIの演奏データがそれに反応します。(このとき鍵盤での手弾き音は影響を受けません)。

このコントロールチェンジの送/受信ができたほうが便利な場合と、できないほうが便利な場合があります。送/受信ができたほうが便利な場合はオンに、できないほうが便利な場合は、オフにします。

[DEMO/SONG]ボタンと[METRONOME]ボタンを同時に押したままD6鍵盤を押します。

D6鍵盤を押すたびにコントロールチェンジ送受信オン/オフが設定されます。



P-85がコントロールチェンジとして扱える情報についてはデータリストの「MIDIデータフォーマット」をご覧ください。データリストはヤマハのウェブサイトからダウンロードできます(7ページ)。

初期設定：オン

困ったときは

現象	考えられる原因	解決法
P-85の電源が入らない。	電源アダプターが差し込まれていません(本体側と家庭用コンセント側)。	電源アダプターを本体と家庭用(AC100V)コンセントに、確実に差し込んでください(11ページ)。
P-85から雑音が出る。	P-85の近くで携帯電話を使っています(または呼び出し音が鳴っています)。	P-85の近くでは、携帯電話の電源を切ってください。P-85の近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。
全体的に音が小さい。まったく音が出ない。	[MASTER VOLUME]スライダーが下がっています。	[MASTER VOLUME]スライダーを上げてください(11ページ)。
	ヘッドフォンを接続しています。	ヘッドフォンのプラグを抜いてください。
	ローカルコントロールがオフになっています。	ローカルコントロールをオンにしてください(28ページ)。
ペダルが効かない。	ペダルコードのプラグが[SUSTAIN]端子/[PEDAL UNIT]端子に差し込まれていません。	ペダルコードのプラグを[SUSTAIN]端子/[PEDAL UNIT]端子に確実に差し込んでください(12ページ)。
特定の音域でピアノ音色の音の 高さ、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしております。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音の高さや音域が異質に感じる場合があります。	異常ではありません。
鍵盤を弾くと、機構音がカタカタ鳴る。	P-85の鍵盤機構は、ピアノの鍵盤機構をシミュレートして設計されています。ピアノの場合でも機構音は実際に出ているものです。	異常ではありません。

P-85仕様

鍵盤	88鍵(A-1～C7)
音源	AWMステレオサンプリング
最大同時発音数	64
音色数	10
効果	リバーブ
ボリューム	マスターボリューム
コントロール	デュアル、メトロノーム、トランスポーズ、チューニング、タッチ(ハード、ミディアム、ソフト、フィックス)
ペダル	サステイン(ハーフペダル対応)*、ソステヌート**、ソフト**
デモ	各音色デモ曲、ピアノ50曲(プリセットソング)
レコーダー	1曲録音/再生可能 65KB (約11,000音符)
MIDI	ローカルコントロール オン/オフ、送受信チャンネルの設定、プログラムチェンジ オン/オフ、コントロールチェンジ送受信 オン/オフ
付属端子	MIDI端子(IN/OUT)、PHONES端子、SUSTAIN端子、PEDAL UNIT端子、DC IN+12V端子
メインアンプ	6W+6W
スピーカー	楕円(12cm×6cm)×2
電源	電源アダプター：PA-5D
消費電力	28W
寸法[間口×奥行き×高さ]	1,326mm×295mm×151.5mm
質量	11.6kg
付属品	保証書、取扱説明書(本書)、ピアノで弾く名曲50選(楽譜集)、クイックオペレーションガイド、電源アダプター PA-5D、フットスイッチFC5、譜面立て

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

* 別売のフットペダルFC3/ペダルユニットLP-5接続時のみ、ハーフペダルに対応します。

**別売のペダルユニットLP-5接続時のみ、ソステヌート、ソフト機能を使用できます。

別売品のご紹介

ヘッドフォン HPE-30/HPE-150

フットペダル FC3

フットスイッチ FC4

キーボードスタンド L-85/L-85S

ペダルユニット LP-5

USB-MIDIインターフェース UX16

USBパソコンとMIDI機器を簡単に接続できるUSB-MIDIインターフェースです。

索引

D

[DEMO/SONG](デモ/ソング)ボタン 14, 15

M

[MASTER VOLUME](マスターボリューム)スライダー 11

[METRONOME](メトロノーム)ボタン 16

MIDI 26

MIDI [IN][OUT](ミディ イン/アウト)端子 26

MIDI送信/受信チャンネルの設定 28

P

[PEDAL UNIT](ペダルユニット)端子 12

[PHONES](フォーンズ)端子 13

[PLAY](プレイ)ボタン 24

R

[REC](レコード)ボタン 23

S

SELECT(セレクト) [◀][▶]ボタン 14, 15

[STANDBY/ON](スタンバイ/オン)スイッチ 11

[SUSTAIN](サステイン)端子 12

T

TEMPO [マ]/[△]ボタン 14, 15

ア

安全上のご注意 2

イ

移調 21

オ

音色 18

音量調節 11

カ

各部の名前と機能 10

キ

キー (調)を変える 21

コ

困ったときは 31

コントロールチェンジ送受信オン/オフの設定 30

サ

サステインペダル 12

シ

仕様 32

ソ

ソステヌートペダル 12

ソフトペダル 12

ソング 15

タ

タッチ 22

ダンパーペダル 12

チ

チューニング 21

テ

デモ曲 14

デュアル 19

電源を入れる 11

テンポ 16

ト

トランスポーズ 21

ハ

バックアップ 27

ヒ

ピアノ50曲(プリセットソング) 15

拍子 16

フ

付属品 7

譜面立て 13

プログラムチェンジ送受信オン/オフの設定 29

プログラムチェンジナンバー 29

ヘ

ペダル 12

別売品のご紹介 32

ヘッドフォン 13

ミ

ミュージックソフトダウンローダー 27

メ

メトロノーム 16

モ

目次 8

目的別目次 9

リ

リバーブ 20

ロ

ローカルコントロールオン/オフの設定 28

録音 23

録音(記録)されるデータの種類 24

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

● 保証書

本機には保証書がついています。
保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

● 保証期間

お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

右に記載の部品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

消耗部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、フロッピーディスクドライブなど

● 補修性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

● 修理のご依頼

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へ修理をお申し付けください。

● 製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

■ ヤマハ電気音響製品サービス拠点（修理受付および修理品お持込み窓口）

◆ 修理のご依頼 / 修理についてのご相談窓口

ヤマハ電気音響製品修理受付センター

● 受付時間 月曜日～金曜日 9:00～19:00、土曜日 9:00～17:30（祝祭日および弊社休業日を除く）

● ナビダイヤル
（全国共通番号）



0570-012-808

※一般電話・公衆電話からは、市内通話料金でご利用いただけます。

（IP電話、携帯電話などからおかけになる場合 TEL 053-460-4830）

● FAX (053)463-1127

◆ 修理品お持込み窓口

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～17:45（浜松サービスステーションは8:45～17:30）（祝祭日および弊社休業日を除く）

* お電話は、電気音響製品修理受付センターでお受けします。

北海道サービスステーション	〒064-8543	札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内	FAX (011) 512-6109
首都圏サービスセンター	〒143-0006	東京都大田区平和島2丁目1-1 京浜トラックターミナル内14号棟A-5F	FAX (03) 5762-2125
浜松サービスステーション	〒435-0016	浜松市東区和田町200 ヤマハ(株)和田工場内	FAX (053) 462-9244
名古屋サービスセンター	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2丁目1-2 ヤマハ(株)名古屋倉庫3F	FAX (052) 652-0043
大阪サービスセンター	〒564-0052	吹田市広芝町10-28 オーク江坂ビルディング2F	FAX (06) 6330-5535
九州サービスステーション	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2丁目11-4	FAX (092) 472-2137

■ ヤマハ電子ピアノに関するお問い合わせ窓口

クラビノーバ・ポータブル楽器 インフォメーションセンター

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1 TEL. 053-460-5272

● 受付日 月曜日～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く） ● 受付時間 10:00～18:00（土曜日は10:00～17:00）
<http://www.yamaha.co.jp/support/>

国内営業本部			
ピアノ企画部 企画グループ	〒108-8568	東京都港区高輪2-17-11	TEL (03) 5488-6795
PA・DMI事業部			
EKBマーケティング部 CL・PKグループ	〒430-8650	静岡県浜松市中区中沢町10-1	TEL (053) 460-3275

■ インターネットホームページのご案内

製品等に関する情報をホームページ上でご案内しております。ご参照ください。

・ヤマハ株式会社のホームページ	http://www.yamaha.co.jp/
・電子ピアノ / キーボードのホームページ	http://www.yamaha.co.jp/product/epiano-keyboard/
・ヤマハマニュアルライブラリー	http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/
・あなたの音楽生活をフルサポート ミュージックイークラブ	http://www.music-eclub.com/
・お客様サポート & サービス	http://www.yamaha.co.jp/support/

※名称、住所、電話番号、URL などは変更になる場合があります。

ヤマハ株式会社